実施要領　様式5　　平成　24　年度　　ユニット名（　A棟　）

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0270201783		
法人名	有限会社　三共システム		
事業所名	グループホーム三共グリーンホーム		
所在地	青森県弘前市大字泉野二丁目8-6		
自己評価作成日	平成24年9月10日	評価結果市町村受理日	平成24年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成24年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅街に立地し、敷地内には庭園や畑等があり、ゆったりとした静かな時間が流れています。
家庭的な雰囲気の中で、その人らしさを大切にし、生き生きとした生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

新興住宅地で近くに公園が整備される等、静かな環境の中に立地しており、地域全体が落ち着いた雰囲気で、周辺を散策するだけでも楽しめる環境にある。
ホーム内に掲示している外出時のスナップ写真等を見ても利用者の表情は生き生きしており、実際、利用者一人ひとりがそれぞれ楽しみながら、自由に時間を過ごしている。
ホームでは基本理念に基づき、職員全体で利用者本位のサービス提供に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内の数ヶ所に提示し、日々のケアの中で共有して、実践につなげている。	地域密着型サービスの役割を反映させた独自の理念を、開設当初より掲げている。ホーム内の目に付く所に掲示することで、日々理念の共有化を図り、職員なりに実践目標を持ちながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板を通して地域の情報を得て、清掃等に参加したり、町内の泉野祭りに参加し、地域との交流を深めるよう努力している。	町内会に加入しており、清掃活動や地域行事に積極的に参加している。また、ホームでも花火大会等を企画し、地域住民に参加を働きかける等して地域の一員としての交流を図っている他、認知症の相談には気軽に応じたり、中学生の福祉ボランティアを受け入れる等、ホームを理解していただけるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学や家族の面会等、認知症についての質問や相談があった場合はアドバイスを行っている。中学校の福祉体験ボランティアを受け入れ、認知症高齢者とのコミュニケーションについて理解出来るよう説明をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議後に職員へ会議録を回覧し、助言等を参考に、業務改善等の検討をしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、年度初めに予め日程を申し合わせている他、事前に開催を通知し、積極的に委員の参加を促している。また、委員から何かしらの意見をいただけるように会議を進行すると共に、会議録を職員に回覧することで職員全体での理解を促し、会議での意見や情報交換をサービス向上に繋げられるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等でホームの実状を見ていただき、サービス向上に向けてのアドバイスをいただいている。また、利用者の生活や事業運営での疑問等を行政担当者に相談し、助言を得ている。	ホームのパンフレットや広報誌を配布している他、自己評価及び外部評価結果や目標達成計画を提出している。運営推進会議には毎回、地域包括支援センター職員が参加している他、行政担当課職員が欠席した時には会議録を提出し、サービスの向上に向けて情報の共有化を図れるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い、身体拘束による弊害についても学んでおり、身体拘束をしないケアの実践を心掛けている。	身体拘束のマニュアルを作成している他、年1回は内部研修を行うことで、身体拘束の内容や弊害についても理解しており、身体拘束を行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでいる。職員は利用者の状況把握に努め、常に居場所を確認しながら見守りを行っており、外出傾向を察知した際には職員が付き添い、庭に出たり、別ユニットを1周している他、納得するまでドライブに出掛ける等して支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、心理的虐待や「不適切なケア」を自分では気付かないうちに行っていないか、自身のケアを振り返っている。ホーム独自の虐待防止に向けた理念があり、全職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修により学んでいる。現在、成年後見制度を利用されている方もおり、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に説明し、不安や疑問点を尋ねながら、納得した上で入居していただいている。改定の際にも理解していただいた上で同意を得ている。必要に応じて退居先への情報提供も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設け、意見箱を設置している。面会時に家族が希望、要望を話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、利用者の希望、要望は日々のケアの中の言動から察するように取り組んでいる。	苦情受付窓口をホーム内に掲示している他、意見箱を設置している。また、入浴時等、利用者と職員の1対1での対応の機会を大切にしながら、意見や苦情等の把握に努めている他、家族の面会時には意見等を出しやすい雰囲気にも配慮し、出された意見や苦情等を速やかに検討し、運営に反映できる体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月の棟会議、年に数回の全体会議において、職員の意見の把握に努め、出された意見を運営に反映している。	ホームでは、日頃から職員が自由に意見を出せる環境づくりに努めている。毎月の棟会議や年に数回行う全体会議において、職員の意見が反映される仕組みを整備しており、実践されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の勤務状況を把握しており、各自が向上心を持って働けるよう、講習受講希望者には勤務体制等の配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数等を基に、必要に応じて外部研修に参加させ、研修後は研修報告書を回覧している。また、内部研修を月１回行い、職員の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会に加入しており、総会、研修会により交流の機会を得ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状況の把握に努め、本人の思いや希望に耳を傾け、本人の不安を受容し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安に思っている事を聞き取り、相談には速やかに対応し、気兼ねなく話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話や本人の状況を見極め、その時々の状態により、他のサービス利用に関しても選択肢として提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器拭き等の軽作業を一緒に行い、必ず感謝の言葉を伝え、余暇活動や行事は一緒に楽しむことで相互関係の構築に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「いずみの通信」（月１回）により、ホームでの生活をお知らせする他、個々のお手紙や面会時に近況報告する等、情報の共有に努めている。また、行事にも参加していただくことで交流を深め、より良い関係の構築に努めている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族が外泊、外出を希望された時はスムーズに出来るよう配慮している。また、入居前から受診している医療機関への受診を継続している他、入居前から関わりのある介護支援専門員との連携を図る等により、関係の継続を支援している。	入居時のアセスメントの他、家族からの情報及び日々の暮らしの中で随時得た情報も追加し、馴染みの人や場所の把握に努めている。また、知人等の面会や手紙・電話のやりとりだけではなく、本人の希望に応じて馴染みの場所に出掛けられるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶の時間や食事の時間は利用者同士が声を掛け合い、共に過ごすことにより、交流が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じ、出来る範囲で本人や家族からの相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、利用者個々の思いや希望を聞き出すように努めている。必要に応じて、家族からも情報収集をしている。	職員は日々のケアを通じて、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、気付いたこと等、必要に応じて家族等から情報収集を行っている他、全職員が利用者の視点に立ち、表情や言動から思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いて、家族からの聞き取りや書類への記入をお願いしたり、本人との日常会話の中から、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、行動や表情からの気付きを大切にして現状の把握が出来るよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を基に、職員間でどのようなケアが必要かを話し合い、介護計画を作成している。	棟会議等で職員の気付きや意見を出し合い、定期的に見直しながら介護計画の作成を行っている。利用者一人ひとりに得意なことがあり、その人らしく暮らし続けることが出来るよう反映させたり、家族等の希望も取り入れながら、個別かつ具体的な計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに日々の暮らし、本人の言葉を具体的に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不穏状態が強い時はその方の精神面の安定を優先して、散歩やドライブ、買い物等の柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の福祉体験ボランティア受け入れ時は、利用者が先生となり、折り紙の指導や戦争の体験談を生き生きとした表情で話す機会があった。避難訓練には消防署や地域住民の参加協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握し、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。	入居時のアセスメントや家族からの聞き取りにより、これまでの受診状況等を把握しており、本人及び家族が希望する医療機関を受診出来るよう、付き添い等の支援も行っている。また、認知症については市内の専門医を、また、歯科に関しては訪問歯科診療を利用しており、適切な医療を受診出来るよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の訪問時には、日々の状態や受診報告を行い、気になる点を相談し、アドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至らないよう、異常の早期発見、緊急受診を心掛けている他、入院した場合には家族や医療機関との連絡を密にとり、情報交換をしている。職員も入院先を見舞い、関係の継続を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	重度化や終末期へは対応しない方針を明確にしている。日常的な健康管理や急変時の対応について、利用者や家族との話し合いを基に、医療機関との連携を図っている。	重度化や終末期への対応はしない方針を明確にし、入居時に説明して納得が得られている。また、重度化した場合には病院や施設等と連携を図る体制を整え、日常的な健康管理や急変時の対応については本人及び家族、並びに医療機関等と話し合い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルがあり、対応体制を整えている。職員は普通救命講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、年2回、昼夜それぞれを想定した避難訓練を行っている。地域住民の参加協力もあり、火災発生時には近隣の町会長にも連絡が入り、協力を得られる体制を構築している。	消防署が立ち会いの下で、町会長の協力も得ながら、昼夜を想定した避難訓練を年2回実施している。また、具体的な避難誘導策を作成してホーム内に避難誘導路を掲示している他、業者に委託して定期的に設備点検も行っている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者にあった声掛け対応を行い、常に自尊心を傷つけることが無いよう心掛けている。	利用者への声掛けや対応について接遇研修を実施し、年長者と接する上での常識的かつ適切な対応に努めている。また、適宜職員間で注意を促し、日々の確認や改善に向けて取り組んでおり、利用者の言動を否定することなく、利用者を優先した支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に合わせ、自己決定出来るよう支援している。言葉だけでなく、行動や表情からも汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、個々のペースを大切にするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に、利用者が好みの服を選んでおしゃれが出来るよう支援している。また、好みの洋服の購入や理容院で染髪する利用者のための外出も支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌い、食べられる量を把握し、代替品や盛り付けの工夫をしている。一人ひとりの出来る範囲で食材の下処理や片づけ等をお手伝いしていただいている。	利用者の状況や意思等に応じて、食材の皮むきやおしぼりの準備等の軽作業を職員と一緒に行っている。また、利用者の希望や好み、量等に配慮し、苦手な食べ物に対しては代替え食を用意する等、食事が楽しみなものとなるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、カロリーや食事バランスに配慮している。一人ひとりに合った食べやすい形状のもので対応する等、支援をしている。また、食事量・水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には緑茶うがいを行い、風邪予防、誤嚥性肺炎の予防となっている。個々の状態に応じて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄記録を活用し、事前誘導を行い、失禁予防に努めている。失禁が見られた場合は他者に気付かれないように配慮し、速やかな対応を心掛けている。	一人ひとりの排泄記録でタイミングを把握し、事前誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。また、尿意の確認時や誘導時の声掛け等、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮しており、特に失禁時の対応は、他の利用者に気付かれないよう速やかに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	個々の排便確認と必要に応じた排便コントロールを行っている。個々に食後のトイレ誘導や水分摂取強化、乳酸菌飲料により、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週3回の入浴であるが、場合によりシャワー浴等の対応をしている。	入浴は週3回実施されている他、必要に応じてシャワー浴等を行い、柔軟に対応している。また、異性の介助を拒む利用者に対しては同性介助にて対応し、入浴に対する利用者の羞恥心や負担感の軽減に配慮した支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を考慮し、休息していただいている。なるべく薬に頼ることなく安眠出来るよう、日中の活動を増やし、入眠出来る環境を整える支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は個人ファイルで常に確認出来るようにしている。薬の処方、用量の変化は受診報告書により、職員間で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割を把握し、個人に合った気分転換の支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月１回の外出行事が予定されている他、日常の中でも個別に買い物やドライブ、ホーム周辺の散歩等の支援を行っている。	季節感を楽しむ外出行事を計画し、月１回は外出する機会を確保している他、ホームの庭園や畑、近隣への散歩等で日常的に外に出ることで気分転換を図っている。また、利用者から行きたい場所等を聞き、外食等の希望が叶えられるよう努めており、移動方法や移動距離にも配慮の上、外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行し、利用者の好きな物を購入出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、ホームの電話を利用し、家族等に連絡がとれるよう支援をしている。また、手紙を出したいとの希望にも応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は温度、湿度、匂い、音量、光の強さを調節し、明るく清潔な空間づくりを心掛けている。季節感を取り入れたディスプレイや花を用意しており、窓からは庭や畑も見え、季節を感じることが出来る。	共有スペースには利用者の顔が一同に見渡せるような円卓を設置し、広めの廊下の所々にあるソファベンチに座りながら、利用者同士で会話が出来るよう配慮している。また、利用者が作成した作品や季節に応じた飾り付け等を行い、家庭的で居心地の良い空間となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に数か所ベンチを置き、気の合う利用者同士が寄り添えるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具、仏壇、家族の写真等を配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室にはベッドとクローゼットを備えてある他、愛用の衣装箪笥や机の他、ぬいぐるみや仏壇等を持ち込んでいる。また、利用者の意向を確認しながら、一人ひとりに合った居室となるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、出来ない事を把握し、状態に応じた環境整備に努めている。		